



1/14 第91号



知っているようで知らない

おちよぼさん



正式には「千代保稲荷神社」といって、京都の伏見稲荷神社・愛知の豊川稲荷神社とともに、日本三大稲荷の一つとして数えられています
御利益として知られているのは**商売繁盛・家内安全**で、企業関係者や自営業者の
参拝が多いのが特徴



月並祭(月末月始の縁日)

おちよぼさんは、月末月始に参拝される方が多くなります。これは、「今月もよく商いができまして、ありがとうございました。来月もよろしくお願ひします」

という**商売繁盛のお礼**をするため。

初午(稲荷神社の祭日) 2月の最初の午の日 今年の初午は**2月12日**です

<由来>

(初午の日に)穀物の神様が稲荷山(伊奈利山)に降臨したとされ、「初午祭」が全国に広まりました。

これに加え、稲荷神の使いのキツネは家を守るという考えが結び付き、稲荷神社では**豊作・商売繁盛・家内安全**を祈願する初午祭が行われるようになりました

稲荷神とキツネの関係

古来、田の神は稲刈りが終わると山にのぼって山の神となり、春になると山から下りて

田の神になると考えられてきました。

キツネは春が来ると山から下りて田んぼのネズミを食べ、秋になると山に帰ることから、稲荷神の使いと考えられたのです。

神社のキツネは口に米蔵の鍵や鎌を加えています



いなり寿司の由来

キツネの好物のネズミを備えるのは殺生になるということで、大豆でできた油揚げを
供えるようになり、稲荷神のおかげでもたらされた米(酢飯)を詰めるようになりました。

東日本では米俵に見立てた俵型で「いなり寿司」、

西日本ではキツネの耳に見立てた三角型で「お稲荷さん」と呼ぶ傾向が強いです。

初午の習わし?



1/14 第91号

江戸時代には、初午に寺子屋や私塾へ入門する習わしがあり、この日に習い事を始める風習がありました。何かを始めるきっかけにしてみてもは？

2月のわわわ広場は、左義長開催のためお休みです

次回 (3/10) のわわわ広場は 春のお楽しみ会 です。

内容は ただいま検討中です。簡単な工作を考えています

